

様式1(解説) 平成 27 年度 学校評価結果報告書 (中間)

学校名	須賀川市立大森小学校	学校教育目標	未来をひらく(世界にはばたく)豊かな創造性と確かな判断力を持ち、心身ともに健康で何事にも責任をもってやりぬく子ども
校長名	岡崎 秀明		○ 進んで学習する子ども ○ 心もからだも健康な子ども ○ 責任を持ってやりぬく子ども

「学校教育の重点」 との関連	評 価 計 画			評 価 結 果	
	本年度の重点目標または重点課題	評価方法及び達成指標	具体的な改善策(主担当)	自己評価の概要(実現状況及び課題)	学校関係者評価の概要 判定
安全・安心な 教育環境の確保	○子どもの安心・安全を第一に考え、事件・事故の未然防止に努めるとともに、危険発生時には適切な対処により、被害を最小限に食い止める。 ○防災教育・放射線教育の充実を図る。	○事故の確認・報告 ・交通事故○・学校事故○ ・「危険発生時対処要領の活用」(職員会議等) ○通案での実施状況の確認 ◎学校評価アンケート該当項目(満足度95%)	○下校指導・学区巡回による交通事故・不審者対策(全職員) ・通学路点検・集団登下校の指導(毎日) ・施設設備の点検・管理(毎日) ○定期的な「危険発生時対処要領」の確認 ○防災教育・放射線教育等の資料等の提供(教務主任) ○防災教育・放射線教育の確実な実施(担任・教務主任)	○登校時(校長)下校時(担任・養護教諭)の引率指導、通学路安全点検(教頭・教務主任による車での巡回)を毎日実施し、安全確保に努めた。 ○危険発生時対処要領は、避難訓練の起床時に全職員で該当箇所の確認を行った。 ●さらに危険発生時対処要領への共通理解を図る場を設定していく。 ○1学期終業式後に防災に関するDVDを全校生で視聴した。 ○学校評価アンケート(保護者)の結果は、98、9%であった。	5 ④ 2 1
「小中一貫教育」 須賀川モデルの推進 (幼・小連携の同時進行)	○大東中学校区の課題を明確にし、共通理解を深めるとともに、共通実践事項・合同事業・家庭や地域との連携事業を進める。	○共通実践事項と合同事業等の推進状況 ・学習習慣・生活習慣についての課題 ・合同事業(ボランティア活動)の実施 ・家庭や地域との連携事業の実施 ○三校一園PTA協議会での協議事項の実践 ・メディアコントロール推進の実施	○中学校区の幼小中連携協議会を開催し、共通理解及び連携事業を具体化する。(管理職・全職員) ・Q-Uの活用、「学びのこころえ」「生活のこころえ」等の作成 ○三校一園PTA協議会での情報交換と「家庭のこころえ」等の実践推進(PTA担当、担任) ・メディアコントロール実践カードの活用	○連絡協議会において「Q-U」についての講演を視聴し、基盤となる学級づくりについての共通理解と実践の確認を行った。 ○分科会において、「授業のこころえ」「学びのこころえ」「生活のこころえ」等について協議し、共通理解を深めた。 ○メディアコントロールについては、実践カードをもとに、中学校区の幼小中で足並みをそろえた取り組みを行うことができた。	5 ④ 2 1
特別支援教育 の推進	○特別な教育的ニーズの必要な子どもの実態把握と「個別の指導計画・支援計画」に基づく障がいに応じた指導改善を行う。 ○特別支援教育についての校内体制を整備し、関係機関との連携を図りながら、指導を充実させる。	○特別支援教育委員会での支援体制の確立及び実践把握の確認 ・実態把握と支援体制の明確化 ・「個別の指導計画・支援計画」の作成状況 ・支援員の配置、T・Tの実施状況 ・校内研修の実施	○特別な支援が必要な児童の把握(担任・コーディネーター・管理職) ○「個別の指導計画」の作成と支援員の配置 ○「個別の支援計画」の作成と家庭との連携(教育相談の実施) ○T・Tや取り出し指導等、個に応じた支援の実施 ○特別支援教育の研修の実施	○各学級における特別な支援が必要な児童については、特別支援教育委員会において共通理解を回り、支援員の配置や取り出し指導等の具体的な校内体制を整えることができた。 ○保護者との教育相談を定期的に開催(担任・コーディネーター)し、連携を図ることができた。 ●「個別の指導計画」「個別の支援計画」については、まだ、作成できていない。取り組みやすき効果的な様式を考えて、2学期早々に作成したい。 ●講師を招聘するなど、充実した特別支援教育の研修を行いたい。	5 ④ 2 1
確かな学力の育成	○確かな力を身に付けさせる「分かる・できる授業」を目指す、授業改善を行う。 ・主体的な学習態度の育成 ・基礎的基本的知識・技能の習得の徹底 ・思考力・判断力・表現力の育成 ○言語活動の充実を図り(協同的な学び)、自分を表現できる子どもを育成する。 ・自らめあてを持って取り組む児童の育成 ・他のおよび気づき、高め合う態度の育成	○校内授業研究会での評価 ○人事評価システムの面談 ・一人学習時間の確保(100%) ・定着確認シートの正当率(80%以上) ○ICT活用(パソコン室の活用10回以上)(各担任) ・家庭学習の定着(チェックカードの活用100%) ・アンダー・アパー・O(100%) ○学校評価アンケート該当項目(満足度95%) ◎学校評価アンケート該当項目(満足度95%)	○授業改善のための校内研修体制の確立と講師招聘授業研究の実施(研修主任 学年各1回:算数) ○「定着確認シート」の活用(各担任) ○スタンダードカリキュラムの自校化(教科主任・教務主任) ○ICT活用(パソコン室の活用10回以上)(各担任) ○学力調査の実施と分析・活用(研修主任・担任) ○生活チェックシートの活用(家庭学習)と家庭との連携(担任) ○群読・1分間スピーチ等、音声言語活動への取り組み(担任)	○校内授業研究会の研究計画が確立し、1学期に2回の講師招聘授業研究会を実施し、授業改善への取り組みがなされた。 ○生活チェックシートの活用が定着し、家庭学習の習慣化が図られた。 ●本時のめあてと学習活動との整合性をさらに図っていく必要がある。 ●スタンダードカリキュラムは教科書が変わったこともあり、現在見直しを進めている状況である。 ●ICT活用については、教員による個人差が大きい。研修の機会を持つなどして活用を図りたい。 ●行事での発表の場の確保、学年集会での群読発表、学級での1分間スピーチの実施など、音声言語表現力を高める場を設定することができ、子どもたちの自信につながった。	⑤ 4 2 1
豊かな心の育成	○道徳の時間の充実と児童の内に根ざした豊かな人間性を育成する。 ・思いやり・親切・節度ある生活態度 ・生命の尊重・公徳・規則の尊重 ○体験活動の充実を図り、 ○きめ細かな生徒指導の充実に努め、いじめ・不登校○を継続する。	○道徳の授業の確実な実施 ・教育課程の実施(通案による確認100%) ○道徳の授業公開1回以上(保護者・管理職) ○別業の作成(100%) ○体験活動の反省(行事反省) ・地域学習・森林環境学習・緑の活動 等 ○児童への学校生活アンケートの実施 ・いじめ○・不登校○ ◎学校評価アンケート該当項目(満足度100%)	○道徳の年間指導計画の別業作成(担任・道徳教育推進教員) ○道徳教育の学級計画の作成、学校教育全体を通して行う道徳教育の推進(担任・道徳教育推進教員) ○児童会でのオアシス運動の推進(児童会・全職員) ○生徒指導上の問題の早期発見と組織的な対応(担任・生徒指導担当・管理職) ・生活アンケート調査の分析と教育相談の実施 ・定期的な生徒指導会議の開催 ○体験活動の推進(行事・体験活動推進部) ○読書推進事業の推進(図書担当)	○授業参観の年間計画を作成し、年1回の道徳の授業公開を計画した。1学期、授業を行った学年もあり、保護者の道徳教育についての理解を深める場となった。 ●別業については、夏休みに作成する予定である。 ●元気なあいさつについては、さらに習慣化を図りたい。 ○生活アンケートの結果、いじめ○を確認できた。また、個別の対応が必要な児童については、教育相談を実施し、担任による児童に寄り添った相談を行うことができた。 ○緑の活動等、行事で予定された体験活動は、事前の準備を計画的に行い、充実した活動となった。 ○朝の読書の時間に全校生が読書に親しむ時間を面することができた。	5 ④ 2 1
健やかな体の育成	○体育の授業の充実を図り、体力・運動能力の向上を目指す。 ○望ましい食生活や規則正しい生活習慣を確立する。	○体力・運動能力の向上策の実施状況調査 ・運動身体プログラムの実施(100%) ・業間で体力づくり実施(100%) ○生活チェックシートの活用状況 ・早寝・早起き・朝ごはん(100%) ○むし歯治療率(85%) ○食育指導の実施(100%～年間計画による) ◎学校評価アンケート該当項目(満足度100%)	○日常的な体力作りの場の設定(体育主任) ・運動身体プログラムの実施 ・業間体力づくりの実施 ○歯磨きカード等の活用と個別指導(養護教諭・担任) ○歯に関する食育の活用(養護教諭・担任) ○食育についての保護者への啓発活動(食育担当) ○食育など基本的な生活習慣の調査(各担任・養護教諭)	○業間マラソンを、曲に合わせて実施するなど、工夫した取り組みにより、全校生が運動に親しむ場を設定できた。 ○給食試食会の場において、保護者向けの食育の講話を行うことができた。家庭の食生活の改善を期待しているところである。 ○朝ごはん摂取率は100%であった。 ●球技大会等の行事に振り回されて、体育の授業では、身体運動プログラムの活用がおろそかになる場面がみられたので、2学期以降、充実を図りたい。 ●むし歯治療率は、目標を達成できるように保護者への勧告を続けた。	5 ④ 2 1
地域とともにある学校	○地域との触れ合いを通して、地域を誇りに思い、地域を大切にすることも育てる。 ○学校と地域との連携を深め、開かれた学校を目指す。	○各種学校行事への地域住民の参加状況 ○地域を学習の場とした学習活動の実施状況 ・学校行事・見学学習・探索活動 ○地域への情報発信 ○学校評議員からの意見聴取	○学校評議員会の開催(管理職) ○地域住民との触れ合い活動の推進(教務主任) ・ボランティア活動・触れ合い授業・各種行事への招待 ○情報発信(管理職) ・HP(毎日)・学校便りの配布(月2回) ○校外学習の計画(各担任)	○ボランティア活動は、地域長寿会との共同作業で実施し、子どもたちに自分たちの地域の美化を意識させることができた。 ○HPによる情報発信や学校だよりにより、学校教育の様子を地域に発信することができた。 ●小中一貫教育に基づく、地域との連携を推進していきたい。	⑤ 4 2 1
教職員の資質・指導力 の向上	○子どものために絶えず研修に励み学び合う教師を目指す。 ・学習指導法の向上 ・学校経営力の向上 ・職務遂行能力の向上 ○教職員の不祥事防止に全力で取り組む。	○人事評価システムの面談(3回実施) ○研究授業における事前・事後指導 ・講師招聘による授業研究(各1回) ○各種研修の伝達の場合 ・一人1研修への参加(全職員) ○服務倫理チェックシート・不祥事○	○「特色ある学校づくり事業」を活用した講師招聘による授業研究の推進(研修主任・管理職) ○審議からの授業参観と授業改善のための話し合い(全教職員) ○市教育研修センター研修への参加促進(管理職) ○OJTによる授業の改善(日常の授業・管理職) ○校内服務倫理委員会の充実(管理職)	○講師招聘の授業研究会を通して、授業改善の推進を図ることができた。 ●小中一貫教育の協議会で、学習習慣や生活習慣についての共通理解を図ることで、指導に生かせるようにした。さらに、各自の指導力向上に結びつけようとした。 ○校長による教室訪問を毎日実施し、授業改善へのアドバイスを行っている。 ○市教育研修センターのセミナーに全職員が参加し、研修に取り組むことができた。 ○校内服務倫理委員会の定期開催を行い、不祥事防止に努めた。	5 ④ 2 1

特 記 事 項	次 年 度 へ の 課 題
○職場の共同意識が高く、風通しのよい職場となっている。 ●給食調理施設・設備、プール等、老朽化が見られる場所があるため、計画的に修繕に取り組んでいきたい。	